

## 5—8. 重大事故発生箇所における迅速な対応

平成16年8月に一般国道5号八雲町山越・野田生地区のランブルストリップス未設置箇所で、2件の正面衝突事故による併せて6名の死者を出す重大事故が発生した。9月3日には、北海道開発局、北海道大学、北海道警察、八雲町などに寒地土木研究所も加わり事故現場を立会し(写真5-17)、対策を協議した。当該地区は海岸線とJR線に挟まれた地区で、道路用地拡幅や中央分離帯の設置が難しく、有効な対策は、ランブルストリップスの設置以外に無く、各機関が連携した以下の対策が実施された。

- ・ 9月16日 交通死亡事故看板を設置(八雲町)(写真5-18)
- ・ 10月25日 追越し禁止区間に変更(北海道警察)(写真5-19)
- ・ 11月1日 ランブルストリップスの設置(北海道開発局)(写真5-20)

正面衝突事故防止効果をより高めるために、一部区間には、写真5-20のように車線両端に滑り止め舗装を施工した。事故発生からわずか3ヶ月以内に対策が完了し、このような迅速な対応は、ランブルストリップスの長所の一つと言える。



写真5-17. 現地立会



写真5-18. 交通死亡事故看板の設置



写真5-19. 追越し禁止区間に変更



写真5-20. ランブルストリップスの設置